

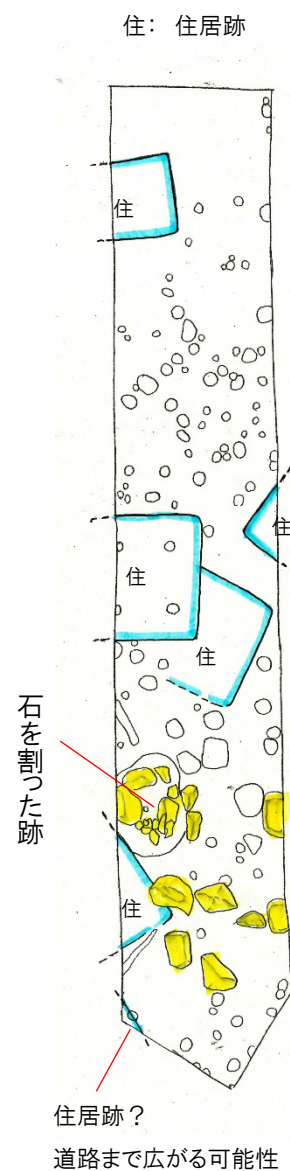
野芥遺跡 20 次調査の概要

2020.11 福岡市埋蔵文化財課

福岡市埋蔵文化財課では、令和2年9月から11月まで、早良区野芥5丁目で発掘調査を行いました。調査では6世紀終わりから7世紀初め(古墳時代後期・飛鳥時代)を中心とした約1400年前の集落跡を確認しました。竪穴住居跡5棟、柱穴などが見つっています。

ほぼ同じ時代の集落跡が、80mほど東の19次調査でも出土しており、一帯にこの時代の集落が広がっていることがわかりました。平野に面した緩やかな斜面は居住に適していたと思われます。

また油山の裾には多くの古墳が広がっており、その作られた時期がこの集落と同じ頃です。今回の竪穴住居に住んだ人々も古墳の造営、祀(まつ)りに関わっていたと思われます。



竪穴住居跡

微妙な土の違い(色・質など)をたよりに掘っていきます。写真は一辺 4.2mほどの方形の竪穴住居です。ちょうど対照的な位置に4つの深めの穴(●)があります。ここに柱を立て、4本の柱を支えとして屋根を構築したと考えられます。また今回は住居の全体を確認することができませんでしたが、西側(写真の下)にカマドを設置しているのではないかと思います。埋土からは須恵器(窯で焼いた硬質の土器)、土師器(素焼きの土器)が出土しました。

掘削前



掘削後



巨石群

南側の道路近くでは、1m大以上の巨石が頭を出しています。この石は人為的なものではなく、この土地の地形ができた時からのものです。調査中に質問が多かったのがこの礫についてでした。調査当初は、古墳の可能性も考えていました。

写真左側には、石を割った跡があります。田んぼに頭を出した石を割って埋めた後と考えられます。これもこの土地に刻まれた歴史の一つと言えます。



縄文時代の遺物

縄文時代の石器が何点か出土しています。左の4点は矢じり(石鏃)で左端は縄文時代早期(約7000年前)に多い形です。右は長崎地方のものと考えられる黒曜石の原石で、表面があばた状になっているのが特徴です。福岡では縄文時代でも早期などの古い時代に見られます。



矢じり(石鏃)



黒曜石原石